渡て敵と合戦と思ふ所に、八條ヶ原にて注進申す処に、
山方へ敵乗込んはいの端を退く事五町又は三町も
利ある地を取て踏つべきたりあるのまゝ考へ、川村
与兵衛・吉田修理亮・亀軍術・柳瀬口へ家来
の海へ乗つゝ有りて川幅凡五百間ほど有る所を
川の瀬川幅広く馬乗よ及びがたき故、瀬口と云
川堤ばかり成に成る川合流の所を鋤ヶ鍵の口と流為つ
る勢に成る所へ寄せ合ひ志田合戦のとき彼井男
敵味方討死の死人にて堀り河の流を変じて紅葉の色を
染くなの所なる多津と云ふ所に年終て後山川の水を堀
鍬を造りて田を耕すこと数年なれば打と河田
にて有命七堀の物法ゆきと云ふ人の考後の物
法り追かけて宮上勢為冬対南表に西の道失り隙
洲ふく軍馬通りしと伝へ

菅野城合戦義長馬腰の事

吉原下口より攻入る中村社国城力ここあの如くなれば女房
吹浦口へ攻られて大将上杉和泉を始め地侍共軍勢多